

題材：「篤姫の小物入れ」 評価基準と支援

【関】：関心・意欲・態度 【発】：発想や構想の能力 【技】：創造的な技能 【鑑】：鑑賞の能力

	主な学習活動	学習活動における具体的な評価基準(評価資料)	評価基準及び評価後の支援(⇒)		
			A(十分に満足)	B(おおむね満足)	C(努力を要する)
1	作者の思いを知る。	【関】【鑑】 ☆ワークシート ・いろいろな作品を見て自分なりのタイトルや感想を書くことができる。	作者の思いを自分なりにイメージして、タイトルや感想を様々な考えや自分なりの想像を膨らませ書くことができる。	作者の思いを自分なりにイメージしてタイトルや感想を書くことができる。	自分なりのタイトルを書いている。または感想を書いている。 ⇒絵の構図や色、形などから受ける印象を聞き、鑑賞指導を行っていく。
2	美術の中の工芸について知る。	【鑑】 ・美術の中のジャンルについて理解することができる。	ジャンルの区別とそれぞれの作品の表現形態及び様式のよさについて理解でき、自分の言葉で表現できる。	ジャンルの区別について理解でき、それぞれの表現形態や様式のよさについて理解することができる。	ジャンルについて理解しようとしている。 ⇒ジャンルや装飾、工芸作品について理解できていない生徒については、素材の違いや作品の制作過程の違いについて考えることを促す。
		【鑑】 ・装飾表現や工芸作品のよさを理解できる。	装飾による表現や工芸作品のよさを十分に理解し、自分の言葉で表現できる。	装飾による表現のよさや、工芸作品のよさを理解することができる。	装飾や工芸作品について理解しようとしている。 ⇒装飾や工芸作品のよさがイメージできずにいる生徒には、生徒の身近にある工芸作品を挙げ、日常生活のなかに工芸作品があることのよさをイメージさせる。
3	制作手順を知る。	【関】 ・工芸・木彫の制作手順を理解できる。	全体的な日程及び制作手順について理解でき、それぞれの作業段階で使用する道具と使い方等を理解できる。	日程を含めた全体的な制作手順と、それぞれの作業段階で使用する道具等を理解することができる。	それぞれの作業手順を理解しようと努力している。 ⇒なぜこのような制作手順を踏まなければならないのか、という理由を丁寧に説明し、理解を促す。
		【関】 ・作業段階ごとの評価基準について理解できる。	それぞれの作業段階での評価の観点を理解でき、何をすればよいかが分かる。	それぞれの作業段階での評価の観点を理解することができる。	それぞれの作業段階での評価の観点を理解しようと努力している。 ⇒どういう学習を行い、何をしなければならないのかということを丁寧に説明し、理解を促す。
4	テーマについて学習する。	【発】 ・テーマ設定について理解することができる。	テーマ設定について理解でき、自分なりに設定されたテーマについて具体的に考えることができる。	テーマ設定をする理由を理解することができる。	テーマ設定を理解しようとしている。 ⇒テーマをもって自分が作りたいものを作ることの大切さを、様々な名画のエピソードを交えて紹介し、理解を促す。

		【発】 ・自分なりに篤姫のことについて項目ごとに調べることができる。	自分なりに様々なソースを活用し、篤姫のことについて詳細に調べることができる。	自分なりに篤姫のことについて項目ごとに調べることができる。	篤姫について調べようと努力している。 ⇒調べ方のヒントや参考資料について紹介する。
5	「篤姫」について知る。	【発】 ・「篤姫」について知る。	調べてきたことを基に、自分なりの人物像をしっかりとイメージできる。	調べてきたことを基に自分なりの人物像をイメージできる。	人物像をイメージしようと努力している。 ⇒グループの生徒が調べてきた内容から自分なりのイメージをつかむことを促す。
		・「篤姫の小物入れ」をイメージする。	イメージした人物像を基に文章で表現したり、アイデアスケッチを描いたりすることができ、具体的に「篤姫の小箱」をイメージできる。	イメージした人物像をアイデアスケッチで表現したり、言葉や箇条書きで表現したりすることができる。	イメージした人物像をアイデアスケッチや言葉で表現しようと努力している。 ⇒その人物の生きた時代背景や、行ったことなどを想像させ、自由に人物像を思い描くことを促す。
6	いろいろな彫り方について知る。	【技】 いろいろな彫り方について知る。	作りたい形を彫るための方法を理解し、これを組み合わせて彫る方法を考えることができる。	作りたい形(立体)を彫るにはどのような彫り方をすれば良いか理解することができる。	彫り方の名前を知ろうと努力している。 ⇒彫り方によって形や手順が異なることを見本を見せながら理解させる。
7	アイデアスケッチを描く。	【発】 アイデアスケッチを描く。	彫り方の学習で知り得た技法を基に、自分のアイデアスケッチをより良いものにできる。	技法を考慮しつつアイデアスケッチを考えることができる。	自分なりのアイデアスケッチを描こうと努力している。 ⇒言葉でのイメージからアイデアスケッチへの移行が難しいと感じている生徒には、単純な形を並べたり、組み合わせたりと例を示し、じっくり取り組むよう促す。
8	アイデアスケッチを鑑賞しあう。	【鑑】 友達のアイデアスケッチを鑑賞する。	友達のアイデアスケッチに対して、自分なりの意見を持ち、どのようにすればより良いデザインになるか提案できる。	友達のアイデアスケッチに対して自分なりの意見を持つことができる。	友達のアイデアスケッチに対して感想を持とうと努力している。 ⇒友達のアイデアスケッチに対して、なかなか自分の意見を言えない生徒には、よいと思った点や小さな疑問でもよいので箇条書きにして発表することなどを勧める。
		【発】 グループで鑑賞・批評し合い、アイデアスケッチを見直す。	自分のアイデアスケッチに対しての意見について、積極的に受け入れ、より良いアイデアスケッチを描くことができる。	自分のアイデアスケッチに対しての意見について、よいと思った意見や参考になる意見を基に、よりよいアイデアスケッチを作ろうとする。	自分のアイデアスケッチに対する意見について参考にしようと努力している。 ⇒自分のアイデアスケッチへの友達の意見に対して、うまく取り入れられない生徒には、その理由を聞く。そして「思いが伝わるデザイン」を考えることを促す。

					す。
9	正投影図について知る。	【技】 平面図から立体を、また立体から平面図をイメージする方法を理解することができる。	平面図から立体をイメージでき、また立体から平面図を正投影図を用いて描くことについて理解できる。	立体を平面に描き表す方法のしくみや、その1つの方法である正投影図について理解することができる。	正投影図について、その考え方を理解しようと努力している。 ⇒正投影図の意味が難しいと感じている生徒には、実際に箱を目の前に見せて面を分けて説明する。 ⇒平面図から立体をイメージすることが難しいと感じている生徒には、平面図の角にあたる部分から面に対し垂直に線を延ばし、別の平面図から伸ばした垂線と重なるところが立体の角となることを伝え、面をイメージする足がかりとさせる。
10	装飾デザインの平面図を描く。	【技】 自分のアイデアスケッチを基に装飾デザインの平面図を描くことができる。	技法を理解した上で自分が考えているデザインを平面図と断面図に描くことができる。	技法を理解した上で自分が考えているデザインを平面図に描くことができる。	自分が考えているデザインを平面図に描こうと努力している。 ⇒描いている平面図が、立体として制作できない状態の生徒には、1つずつ構造を捉えながら考えることを促す。
11	トレースする。	【技】 平面図に描いたデザインを小箱にトレースすることができる。	平面図に描いたデザインを小箱にレイアウトに配慮しながらトレースすることができる。	平面図に描いたデザインを小箱に丁寧にトレースすることができる。	平面図に描いたデザインを小箱にトレースしようと努力している。 ⇒トレースする際の注意点を理解させ、丁寧に作業することを促す。
12	制作(彫る)	【技】 トレースされたデザインを、いろいろな彫り方で彫ることができる。	木目の方向や作業手順を考えながら、トレースされたデザインを、いろいろな彫り方で丁寧に彫ることができる。	木目の方向を考えながら、トレースされたデザインを、いろいろな彫り方で彫ることができる。	トレースされたデザインをいろいろな彫り方で彫ろうと努力している。 ⇒彫る順番や彫り方について、作業手順や技法について復習してから作業に取りかかるように促す。
13	制作(仕上げる)	【技】 当て木を使って紙ヤスリで表面を仕上げることができる。	最適な大きさや形の木片を当て木として使いながら、適した番数の紙ヤスリで、木目の方向に注意しながら表面を研磨することができる。	木片を当て木として使いながら、紙ヤスリで表面を研磨することができる。	紙ヤスリで研磨することができる。 ⇒仕上げの意味と大切さを理解させ、当て木を使った研磨をするように促す。
14	制作(塗装する)	【技】 適した塗料で塗装することができる。	塗料と塗り方について理解でき、イメージする箱に適した塗料と塗り方で丁寧に塗装することができる。	塗料と塗り方について理解でき、イメージする箱に適した塗料で塗装することができる。	塗料と塗り方について理解しようと努力し、塗装することができる。 ⇒塗装の大切さを理解させ、塗料や塗り方について調べるように促す。

15	鑑賞する(相互鑑賞)	【鑑】 お互いの作品を鑑賞し、相互批評する。	自分の作品のよさや友達の作品のよさを見付け、言葉で的確に表現することができる。	自分の作品のよさを見付け、友達の作品のよさを見付けることができる。	自分の作品のよさや、友達の作品のよさを見付けようと努力している。 ⇒デザインや彫り方、仕上げの方法や塗装などの作業項目に分けて考えさせ、作品を見るように促す。
----	------------	---------------------------	---	-----------------------------------	--